

# 活動レポート

## リージョナルステート研究委員会

文責：リージョナルステート研究委員会 副代表  
地域主権分科会 幹事長 中田光治

### 北海道水素地域づくりプラットフォーム 平成 29 年度第 2 回会合の参加報告

～北海道における温室効果ガス削減の最適エネルギー技術の導入解析～

#### 1. はじめに

平成 27 年 5 月に「北海道水素地域づくりプラットフォーム(以下、水素 PF と略称する)」が設立されました。水素 PF への参加者は、国、地方公共団体、有識者、民間企業、関係法人などで、事務局は国土交通省北海道開発局です。当会の活動内容は、水素を活用した地域づくりに関する意見交換、情報の交換、先進地の視察などで、リージョナルステート研究委員会の目的、活動内容に合致していることから、平成 27 年 10 月より参加することにしました。

今回は、平成 30 年 2 月 1 日(木)に京王プラザホテル札幌 3 階「雅の間」で開催された平成 29 年度第 2 回会合に参加しました。当日は、国の機関が 4 機関、地方公共団体が 15 団体、団体が 4 団体、民間企業が 19 社の会員に加え、会員随行者、マスコミ関係者、一般道民(傍聴人)など総勢 150 人の参加者がありました。会合の概要を報告させていただきます。

#### 2. 平成 29 年度第 2 回会合への参加報告

##### (1) 座長挨拶・基調講演

水素 PF 平成 29 年度第 2 回会合は、開会宣言の後、座長挨拶として北海道大学名誉教授の佐伯浩先生から、化石燃料への依存度が高いものを将来的に再生可能エネルギーへと転換し、経済に好循環を生み出す必要があること、日本は水素エネルギー活用において世界トップクラスの技術を有していること、これを活用することで安全で住みよい北海道を構築していくべきであること等のお話がありました。

次に、基調講演として、本水素 PF の座長代理で、北海道大学大学院工学研究院特任教授の近久武美先

生から「北海道における温室効果ガス削減の最適エネルギー技術導入解析～水素の利活用促進を踏まえて～」と題する講演がありました。

この講演では、2050 年までの積算 CO<sub>2</sub> 排出量、系統電力発電構成、系統電力需要量と CO<sub>2</sub> 排出量、余剰電力による水素製造、水素の輸送方法、FCV の普及条件など水素に関する多様な技術が紹介されました。さらに、結論として、水素はバッテリーと比べて大容量、長期保存の点で有利であること、水素の利用は系統電力に戻すよりも水素利用に適した運輸部門で利用すべきこと、燃料電池自動車はすでにユーザーに受け入れられており、さらに推進していくためには水素ステーションの充実が課題であること、長距離トラックやバスは燃料電池化するメリットが大きいこと、今後の水素による地域づくりを推進していくには行政的な仕組みづくりが課題となるなどの示唆に富む提案がなされました。

##### (2) 講演・情報提供

次に、宮城県環境生活部再生可能エネルギー室水素エネルギー推進班技術主幹の梶原光弘氏から「宮城県の水素エネルギー利活用の取組みについて」と題する講演がありました。

当該講演は、東日本大震災からの創造的な復興、水素の製造方法、水素エネルギーの利活用の意義、水素エネルギーの宮城県の取組み、みやぎ水素エネルギー利活用推進ビジョン、FCV 導入促進プロジェクト、FCV 導入の意義、これからの電動車の棲み分け、スマート水素ステーション、水素ステーション整備の現状、水素エネルギー普及開発プロジェクトなどのお話がありました。宮城県では、トヨタ自動車、本田技研工業などの FCV 車を 5 台保有してお

り、レンタル自動車として提供しているそうです。また、出張時の利用を推奨しているとのことでした。

次に、会員の3団体から情報提供がありました。情報提供の最初は、エア・ウォーター株式会社から「移動式水素ステーション札幌の概要について」と題し、北海道初の商用水素ステーションが2018年3月26日に、札幌市豊平区月寒に開所されるとの情報提供がありました。水素ステーションは、平成29年11月末現在、全国で101箇所整備されていますが、これらの大半は首都圏など三大都市圏に集中しており、東北地方に3か所、北海道にはこの1か所のみということでした。

二番目の情報提供は、環境省北海道地方環境事務所から「平成30年度環境省水素関連予算について」と題し、エネルギー対策特別会計を活用した環境省の温室効果ガス削減施策、水素を活用した自立・分散型エネルギーシステム構築事業、再エネ水素を活用した社会インフラ低炭素促進事業、再エネ等を活用した水素社会推進事業の情報提供がありました。

三番目の情報提供は、北海道環境生活部から「環境・エネルギー講演会」に関する情報提供がありました。何でも2月23日に「北海道のエネルギービジョン～水素を活用したスマートアイランドの実現に向けて」の講演会が開催される予定だそうです。

以上、講演及び情報提供の後、質疑応答及び意見交換がなされ、最後に、閉会挨拶が事務局からあり、今回の第2回会合が閉会しました。

質疑応答では、「水素は、製造過程、貯蔵過程、輸送過程などで爆発しないのか」、「水素ステーションを市街地で建造する場合、周辺住民などから反対運動などがなかったのか」などの質問が出ました。

これに対して、「これまで全国の水素の製造施設や貯蔵施設などにおいて爆発事故は起きていない」との回答がありました。

また、「仙台市の中心市街地に水素ステーションを建設した場合を例示して、仙台市では特に反対運動は起きなかった。正しい知見、知識を住民に公開、説明すれば問題は発生しないのではないか」という

回答がなされました。

### 3. 終わりに

今回水素PF第2回会合に参加できたことで、水素を活用した地域づくりに関して、基調講演、講演情報提供を受けることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。具体的には、水素社会の実現に向けた関係機関の取組み、水素の製造・運搬・貯蔵技術、水素を活用した自動車(FCV)、水素ステーションの現状及び今後の整備の必要性など、幅広い知見・技術を体得することができました。

私たちリージョナルステート研究委員会では、今後も北海道における水素を活用した地域づくり、水素社会の実現に向けて勉強していきたいと考えています。今後も、水素技術に関する情報があれば会員の皆様方に提供していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



写真-1 水素PF第2回会合の会議風景



写真-2 宮城県環境生活部梶原光弘主幹のご講演風景